

令和7年度 小さな拠点・地域運営組織形成支援事業

小さな拠点づくり伴走支援プロセス事例集

～伴走支援の経過と話合いのポイント～

令和8年3月31日
福島県/みらいくる（事業受託者）

はじめに・目次

はじめに

■ 本事例集の目的

小さな拠点・地域運営組織形成に向けた伴走支援の実例を共有し、各地域での応用を促進することを目的としています。

■ 活用の想定

- ・市町村での説明会や企画会における参考資料
- ・庁内関係部署での情報共有
- ・地域住民向け出前講座の補助教材

目次

▶ 事例①（ 二本松市東和地域 ）	p.3 - 8
-------------------	---------

▶ 事例②（ 伊達市 ）	p.9 - 14
--------------	----------

▶ 事例③（ 石川町 ）	p.15 - 20
--------------	-----------

▶ まとめ・問合せ先	p.21
------------	------

事例①：二本松市東和地域 - 地域概要と課題

地域概要

東和地域（旧東和町）は4エリア（木幡、太田、針道、戸沢）に分かれる
各地区で計約4,800人、65集落が存在
「NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」が設立から20年活動
新規就農、農家民宿を推進し成果をあげる

関係者

地域主体：東和地域内各地区の地域づくり協議会等
行政・支援：二本松市東和支所、集落支援員、大学等、福島県

主要課題

1. コミュニティ・担い手不足

人口減少と高齢化により、行政区役員や祭り・消防団などの担い手が不足。コミュニティの希薄化が進む。

2. 生活環境の維持（移動・買い物）

高齢者の移動手段（買い物や通院の「足」）の確保が課題。地域に生鮮食料品を扱うスーパーがない地区が出てきた。

3. 農地と景観の維持

農業の担い手不足により耕作放棄地が増加。景観の悪化や鳥獣害（サル・イノシシなど）が深刻化。

小さな拠点の方向性（初期仮説）

「既存の広域組織でカバーできない
コミュニティ活動の促進と身近な拠点の形成」

事例①：出前講座・企画会のプロセス（二本松市東和地域）

- 事前調整 (R7. 7. 25) 県・市（東和支所）・受託者によるオンライン打合せ。地域の現状・課題共有
- 出前講座 (R7. 9. 20) 地域コミュニティを考える出前講座 in 東和地域。参加者42名で課題・事例共有
- 分析・フィードバック (R7. 10. 15) 感想・課題共有シートの分析。地域の課題、気づき、今後のアイデアを整理
- 企画会①（針道地区） (R8. 1. 16) 出前講座フォローアップ。針道地区の地域づくりを考える会を開催
- 今後の取組アイデア 東和地域内の地域運営組織の情報共有・対話の場の設定、研修活動各地区（木幡、太田、針道、戸沢）の課題に応じた自律的な活動

🎥 記録・共有 全回において録画およびグラフィックレコーディングを実施し、感想・課題共有シートによる参加者の声を分析。

【実施報告】地域コミュニティを考える出前講座 in 東和地域

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業
持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ

地域コミュニティを考える 出前講座 in 東和地域

人口減少・少子高齢化の進展により、地域の役員の成り手不足、高齢者の移動の問題、自治会の運営など、地域には様々な課題が現れてきています。
この催しは、地域コミュニティを持続可能なものにするために取組を進めている、様々な地区の事例を学べる出前講座です。
これからの地域の活動に活かせるヒントがたくさんあります。ぜひご参加ください。

日時 9月20日(土)
18:30~20:30 (開場18:00)

場所 東和文化センター
2階研修室

対象 ①地域活動に取り組む住民の方
②行政長官
③集落支援員 など
定員：50名

プログラム

- ①県の取組説明
福島県の施策を説明します。
- ②小さな拠点・地域運営組織の取組事例紹介
地域運営組織・小さな拠点の意義や、取組事例等を紹介します。
- ③東和地域の地域づくりの取組発表
各地域の地域づくり団体による取組内容を発表いただきます。
- ④意見交換タイム
参加者同士で感想やアイデアを共有しましょう。

事例発表団体

- ☆NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会
- ☆針道地区団体長連絡協議会
- ☆こはた夢クラブ
- ☆太田の里地域づくり協議会
- ☆戸沢地域振興協議会

東和地域の地域づくり活動の今が分かる！

お申し込み

右の二次元コードよりお申し込みいただくか、以下までお電話、FAX、メールでお申し込みください。(お名前、ご住所、電話番号をお伝えください。)

東和支所地域振興課 電話 0243-66-2490 FAX 0243-46-4122
電子メール tow.chiikishinko@city.nihonmatsu.lg.jp

※持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ：小さな拠点・RMOづくりに必要なスキルを実践的に学ぶほか、同じ思いを持つ仲間との交流などを通して、持続可能な地域コミュニティの共創を目指す事業です。

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業
主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：二本松市
運営・お問い合わせ先：みらいくる「持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ」事務局
staff@miraikuru.org

作成：令和7年8月19日

開催概要・プログラム

日時：令和7年9月20日(土) 18:30~20:30

会場：東和文化センター 2階研修室

定員：50名 参加者：42名

対象：地域活動に取り組む住民、行政区長、集落支援員 など

主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：二本松市

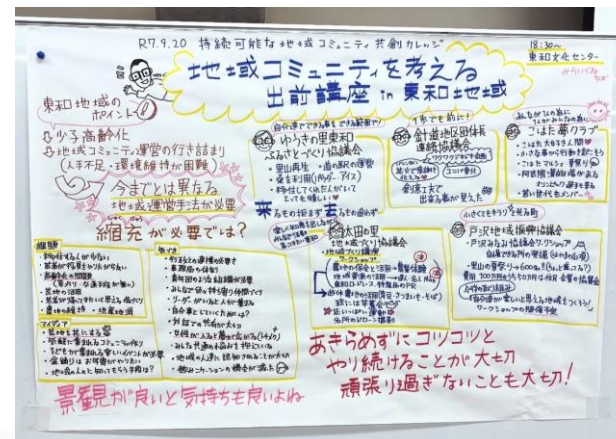
県の取組説明

小さな拠点・地域運営組織の取組事例紹介

東和地域の地域づくりの取組発表

意見交換タイム

当日の様子



参加者の声～アンケート・感想より～

満足度・主な意見

アンケート満足度：非常に高い評価

事例紹介が分かりやすく参考になった
対話の場（ワークショップ、企画会）の重要性を実感した
「夢を語る」ことから始める大切さを学んだ
女性や若者を巻き込む仕組みづくりが必要だと感じた

特徴的な気づき

小さくスタートし、具体的なゴール設定を行うことが重要
継続可能性を確保するため、評価やフィードバックの仕組みが鍵
地域間連携やイベントを通じた情報発信の強化が必要

地域の課題（感想・課題共有シートより）

人口減少・高齢化による地域活動の担い手不足
若者の参加低迷、女性の声が届きにくい環境
空き家の増加や耕作放棄地、高齢者の移動手段（足）の不足
地域内に蔓延する「諦めムード」からの脱却

今後のアイデア（参加者提案）

定期的な世代間対話やワークショップの開催
気軽な集いの場（カフェ、サロン、「たまり場」）づくり
空き家リノベーション（多世代カフェ等）や景観作物の活用
地元人材マップ作成や「助っ人バンク」の創設によるマッチング
地域全体のネットワーク強化と事務局体制の整備

事例①：成果と話合いのポイント（二本松市東和地域）

🚩 主な成果・気づき

危機感の共有と行動意欲の喚起

「他団体の危機感ある行動に共感」「自分も動き出したい」
同じ東和地域内でも、それぞれの地区状況の共有がなされたことで、共感を覚えたり、取り入れたいという意見が多数あった。

話し合いの場（ワークショップ等）の重要性の認識

「夢を語ることの大切さ」「若い世代・女性の参画が重要」
地域を担う多様な世代のメンバーが、対話をしながら活動に繋げている事例から、重要性を認識する意見があった。

具体的なアイデアの創出

空き家カフェ、景観作物（花壇）、ボランティア輸送など

🗨️ 話合いのポイントと今後の課題

人口減少を前提とした「縮充」の意識醸成

小さく始めてトライ＆エラーを許容する風土づくり

地区・団体間の連携ネットワーク構築（東和全域）

事務局体制の強化と「頑張りすぎない」仕組み

外部人材（大学生、地域おこし協力隊等）との積極的連携

【フォローアップ】針道地区の地域づくりを考える会

地域運営組織が設立されていない、東和地域内の針道地区でのフォローアップを実施。

i 開催概要

日時：令和8年1月16日（金）18:00～

会場：東和文化センター 参加者：28名

挨拶

針道地区のこれからの地域づくりを考えよう

意見交換



💡 具体的な提案・要望

移動支援：ボランティア輸送の仕組みの検討

施設活用：中学校跡地活用、合宿施設整備

環境整備：名勝地の駐車場・道路整備

外部連携：大学生・企業との協働

意識改革：「縮充」の考え方への強い共感

参加者の主な気づき

🏠 地域づくり協議会の組織化推進

各部会（ふくし部会等）の重要性を認識し、針道地区の組織化・再編成を進めるべきとの声が多数挙げられました。

👥 限界集落対策と行政区再編

行政区の人口の偏りを解消し、移住対策を含めて限界集落化を防ぐための具体的な方策が急務であると認識されました。

🏠 交通インフラと住環境整備

二本松市街や福島市・郡山市へのアクセス向上、市営住宅の整備など、安心安全に暮らしを続けるための基盤整備が必要です。

🗨️ 継続的な話し合いの場づくり

老若男女が夢を語り合える場を設け、対話が苦手な若年層も巻き込むような継続的な仕組みづくりが求められています。

事例②：伊達市 - 地域概要と課題

地域概要

平成26年度より地域自治組織を組織（現在市内28組織）

長年に渡り活発な地域活動を展開

しかし、山間部を中心に人口減少と少子高齢化が進行

既存の地域自治組織単独での活動維持が困難になりつつある

関係者

地域主体：市内28の地域自治組織（会長・事務局長）

行政・支援：伊達市（協働まちづくり課）、
伊達市市民活動支援センター、福島県

主要課題

1. 役員・担い手の不足と負担集中

人口減少と高齢化により役員のなり手が不足。60～70代の就労延長によりボランティア層が減少し、一部の役員に負担が集中。

2. 高齢者の移動手段（足）の確保

公共交通の不便さや免許返納により、買い物や通院が困難に。ボランティア輸送も運転手不足や制度上の懸念がある。

3. 地域参加の固定化と若者・女性の参画不足

地域活動への参加メンバーが固定化し、温度差が拡大。若者や子育て世代、女性の意見が反映されにくい環境となっている。

小さな拠点の方向性（初期仮説）

「活動のスクラップ&ビルドによる負担軽減と
住民ニーズに即した持続可能な地域運営への転換」

事例②：出前講座・企画会のプロセス（伊達市）

- 事前調整 (R7.9~10月) 県・市・受託者で事前調整。山間部の人口減少や役員の担い手不足等の課題を共有。
- 出前講座 (R7.10.11) 月舘総合支所にて35名参加。事例紹介（50分）、意見交換（40分）、グラレコ共有を実施。
- アンケート等収集 (R7.10~11月) 感想・課題共有シートの分析。活動の具体化、若者へのアウトリーチ、交通支援の要望等を確認。
- フォローアップ (R8.2.3) 市役所本庁舎にて会長・事務局長70名参加。振り返り、市の活動交付金説明、意見交換を実施。
- 今後の取組アイデア 地域自治組織ごとの意見交換の場や研修の機会の創出、市の制度への意見交換の場の創出 等

📺 記録・共有 出前講座での録画やグラレコ、アンケートによる声を細かく分析し、フォローアップで着実にフィードバック。

【実施報告】地域コミュニティを考える出前講座 in 伊達市

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業
持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ

地域コミュニティを考える 出前講座 in伊達市

人口減少・少子高齢化の進展により、地域の役員の成り手不足、高齢者の移動の問題、自治会の運営など、地域には様々な課題が現れてきています。
この催しは、地域コミュニティを持続可能なものにするために取組を進めている、様々な地区の事例を学べる出前講座です。
これからの地域の活動に活かせるヒントがたくさんあります。ぜひご参加ください。

日時 10月11日(土)
13:30~15:30
(開場13:00)

場所 月館総合支所
ふれあいホール2階

対象 ①地域自治組織役員
②行政区長・町内会長
③集落支援員 など
定員：50名

プログラム

- ①県の取組説明
福島県の施策を説明します。
- ②事例紹介
地域運営組織・小さな拠点の意義や、県内各地区の地域内交通をはじめとした取組事例等を紹介いたします。
- ③質疑応答・意見交換
質疑応答や参加者同士で感想を共有し今後の取り組みのヒントを考えましょう。

事例紹介

人口減少や地域コミュニティの年齢構成の変化の中で、これからの地域運営の手法としての「地域運営組織」や「小さな拠点」について、地域課題の解決に取り組む様々な取り組み事例を紹介します。

お申し込み

右の二次元コードよりお申し込みいただくか、以下までお電話、メールでお申し込みください。
(お名前、ご住所、電話番号をお伝えください。)

伊達市協働まちづくり課 電話 024-575-1177
電子メール kyodou@city.fukushima-date.lg.jp

締切り：10月3日(金)

※持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ：小さな拠点・RMOづくりに必要なスキルを実践的に学ぶほか、同じ思いを持つ仲間との交流などを通して、持続可能な地域コミュニティの共創を目指す事業です。

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業
主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：伊達市
運営・お問い合わせ先：みらいくる「持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ」事務局
staff@miraikuru.org

作成：令和7年9月12日

開催概要・プログラム

日時：令和7年10月11日(土) 13:30~15:30

会場：月館総合支所 ふれあいホール2階

定員：50名 参加者：35名

主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：伊達市

県の取組説明

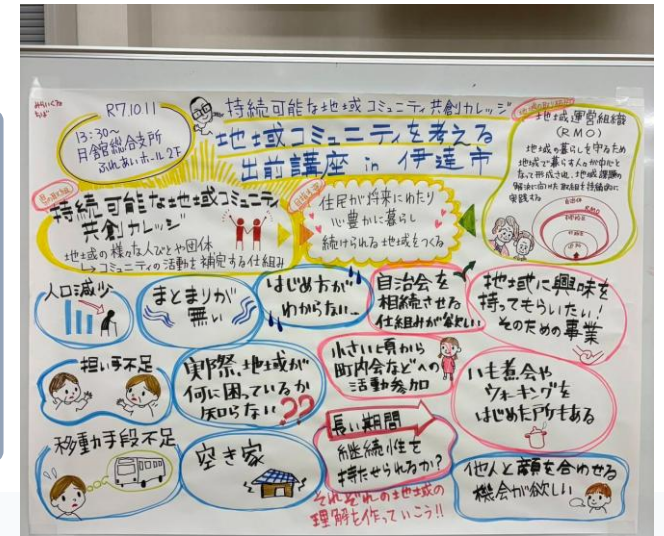
事例紹介 (50分)

休憩

質疑応答・意見交換 (40分)

※個人ワーク・グループワーク含む

当日の様子



参加者の声～アンケート・感想より～

満足度・主な意見

アンケート満足度：非常に高い評価（「分かりやすかった」「もっと聞きたい」）

事例紹介に共感し、他地域の取組が参考になった
短期ボランティアなどの具体的な活動アイデアに関心
若者や家族層へのアプローチの必要性を認識
出前講座の定期開催（年1-2回）を求める声

特徴的な気づき

参加のハードルを下げ、誰でも関わりやすい仕組みが重要
多世代・多様な主体を巻き込むことの必要性
定期的な活動評価とPDCAサイクルの構築
補助金に頼らない継続可能性の担保が課題

地域の課題（感想・課題共有シートより）

深刻な役員・ボランティアの担い手不足（高齢化、複数兼務）
高齢者の移動手段（交通・足）不足とデマンド交通の不便さ
地域参加の固定化や住民間の「温度差」
若者・家族層、女性の参画不足（ジェンダーバランス）
活動の評価やフィードバック体制の欠如

今後のアイデア（参加者提案）

1-2時間の小さな活動や活動リストの公開でハードルを下げる
SNSや学校・PTA等を通じた若者へのアウトリーチ
出前講座の定期開催と自由討論（世代間対話）の場の設定
移動支援（ドア・トゥ・ドア、ミニバス等）の具体化
ボランティアの募集・育成、役員継承計画の策定
活動評価とフィードバックループの構築

事例②：成果と話合いのポイント（伊達市）

主な成果・気づき

高い満足度と課題共通性の認識

「分かりやすかった」「どの地域も悩みは同じ」

ニーズ調査と事業評価の必要性

「やりっ放しではなく評価が必要」「住民ニーズの把握」

具体的な活動への意欲

短期ボランティアや交通支援（ドアtoドア送迎）への関心

話合いのポイントと今後の課題

ハードルを下げる小さな活動の創出（1-2時間の参加等）

若者・女性へのアウトリーチ強化（SNS、PTA等活用）

継続的な学習・対話の場の提供（定期開催と世代間交流）

交通・移動支援の具体化と担い手発掘

活動の継続可能性担保（他団体連携や資金調達戦略）

【フォローアップ】伊達市 出前講座フォローアップ(活動交付金説明会・意見交換会)

地域自治組織会長会において、出前講座のアンケート結果や意見交換の内容を共有しました。

i 開催概要

日時：令和8年2月3日(火) 14:00～15:30

会場：伊達市役所本庁舎 4階 401・402会議室

対象：地域自治組織会長・事務局長 参加者：70名

出前講座の振り返り（内容・アンケート結果等）

令和8年度 地域自治組織活動交付金について

意見交換



💡 主な意見

アンケート調査の実施について：アンケートを自治区でも取り組んでみたいので手法を教えて欲しい

市交付金の活用条件：市の交付金の活用条件等を教えて欲しい

自主的な組織運営：市の補助制度のあり方について、市の考えを伺いたい。また、地域の意見を取り入れて欲しい

事例③：石川町 - 地域概要と課題

地域概要

平成26年から地域自治協議会の設立に向けた取組を開始

平成28年～令和5年にかけて町内6地区に協議会が設立

14行政区を持つ地区など、地区ごとに規模や構成が多様

北須川・今出川沿いの桜など、豊かな自然と地域資源が点在

関係者

地域主体：自治組織役員、行政区長、各種部会

行政・支援：石川町、集落支援員、地域おこし協力隊、
大学等、福島県

主要課題

1. 担い手不足と「あて職」の限界

人口減少と高齢化により役員が不足し、複数役職の兼任が常態化。義務感による「あて職」ではモチベーション維持や活動継続が困難になっている。

2. 多様な視点の欠如と生活課題

女性の交流や意見表明の場、若者の地域参画が少ない。また、高齢者の移動手段（足）不足や買い物・ゴミ出し支援などの生活課題が深刻化している。

3. 地域資源の維持管理の困難化

地域のシンボルである桜の老木化への対応や、水路・河川の草刈り・維持管理など、これまで地域で担ってきた環境保全活動の維持が難しくなっている。

小さな拠点の方向性（初期仮説）

「『あて職』から脱却し、有志チームによる
プロジェクトベースの活動と多世代・女性の参画促進」

事例③：出前講座・フォローアップのプロセス（石川町）

● 事前調整

（R7.11月以前）県・町・受託者による打合せ。自治協議会の現状や「あて職」による組織運営の限界といった課題を共有

● 出前講座

（R7.11.21）共同福祉施設で開催（38名参加）。先進事例の紹介等を実施。アンケートの全体満足度は極めて高い結果に

● 意見・課題の収集

講座時に「感想・課題共有シート」を収集。桜の保全、移動支援、女性の参画など、具体的課題に対するリアルな声を抽出

● 分析・アイデア整理

（R7.12）収集した意見を分析し、「有志チーム制導入」「属性別ワークショップ」「自治会メリットの見える化」等を整理

● 今後の取組アイデア

地域自治協議会の情報共有・対話の場の設定や、事業構築や組織運営、ファシリテーションなどの研修活動
義務的な活動から「やりたい人が楽しく取り組む」活動への意識転換を図り、今後の具体的なアクションへ接続



進行の工夫

アンケートや感想シート等のデータを活用し、住民の潜在的なニーズを可視化。ファシリテーションを交えた意見交換により、地域課題の「自分事化」を強く促しました。

【実施報告】地域コミュニティを考える出前講座 in 石川町

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業
持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ

地域コミュニティを考える 出前講座 in石川町

人口減少・少子高齢化の進展により、地域の役員の成り手不足、高齢者の移動の問題、自治会の運営など、地域には様々な課題が現れてきています。
この催しは、地域コミュニティを持続可能なものにするために取組を進めている、様々な地区の事例を学べる出前講座です。
これからの地域の活動に活かせるヒントがたくさんあります。ぜひご参加ください。

日時 **11月21日(金)**
17:00～19:00
(開場16:30)

場所 **石川町共同福祉施設
多目的ホール**

対象 ①自治組織の役員
②行政区長
③集落支援員 など
定員：50名

プログラム

- ①県の取組説明
福島県の施策を説明します。
- ②事例紹介
地域運営組織・小さな拠点の意義や、県内各地区の地域内交通をはじめとした取組事例等を紹介いたします。
- ③質疑応答・意見交換
質疑応答や参加者同士で感想を共有し今後の取り組みのヒントを考えましょう。

事例紹介

人口減少や地域コミュニティの年齢構成の変化の中で、これからの地域運営の手法としての「地域運営組織」や「小さな拠点」について、地域課題の解決に取り組む様々な取り組み事例を紹介します。



お申し込み

右の二次元コードよりお申し込みいただくか、以下までお電話、FAX、メールでお申し込みください。(お名前、ご住所、電話番号をお伝えください。)

申し込みフォーム



締切り：11月14日(金)

石川町企画商工課協働推進係 電話 0247-26-9111 FAX 0247-11-1111
電子メール kyodo@town.ishikawa.fukushima.jp

※持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ：小さな拠点・RMOづくりに必要なスキルを実践的に学ぶほか、同じ思いを持つ仲間との交流などを通じて、持続可能な地域コミュニティの共創を目指す事業です。

令和7年度小さな拠点・地域運営組織形成支援事業
主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：石川町
運営・お問い合わせ先：みらいくる「持続可能な地域コミュニティ共創カレッジ」事務局
staff@miraikuru.org

作成：令和7年10月16日

開催概要・プログラム

日時：令和7年11月21日(金) 17:00～19:00

会場：石川町共同福祉施設 多目的ホール

定員：50名 参加者：38名

対象：自治組織の役員、行政区長、集落支援員 など

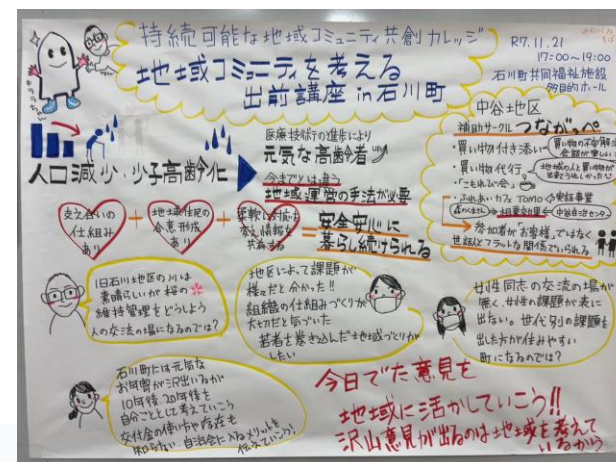
主催：福島県企画調整部地域振興課 共催：石川町

県の取組説明

小さな拠点・地域運営組織の取組事例紹介

質疑応答・意見交換

当日の様子



参加者の声～アンケート・感想より～

満足度・主な意見

アンケート満足度：極めて高い評価（多くが4-5点）

- 桜・環境保全への具体的な提案への関心
- 移動支援・ボランティア輸送についての要望
- 会議におけるファシリテーションの重要性を認識
- 若者と一緒に活動できる場づくりの必要性を実感

特徴的な気づき

- 「あて職」から「有志ベース」へ組織を転換すべき
- 小さく始めることで負担感を低減し、参加のハードルを下げる
- ニーズ調査などデータを活用し、多世代・女性の参画を促進

地域の課題（感想・課題共有シートより）

- 人口減少と高齢化に伴う担い手不足が深刻
- 「あて職」による組織運営の限界と弊害（モチベーション低下）
- 女性が交流し、意見を表明できる場の不足
- 高齢者の移動手段の不足や、資源（桜など）の老朽化

今後のアイデア（参加者提案）

- プロジェクトベースの有志チーム制（桜守り隊・おでかけサポート隊）
- 属性別ワークショップ（女性だけの地域トーク、若者との未来会議）
- 自治会加入メリットの見える化（カタログ・チラシ作成）
- 移動支援・ボランティア輸送の仕組みづくり

事例③：成果と話合いのポイント（石川町）

主な成果・気づき

「楽しさ」の重要性認識と自分事化
義務感ではなく「やりたい人が楽しく」取り組み、自分事に変える

データ活用とメリットの見える化
アンケート等によるニーズ把握と自治会等への参加メリットのPR

具体的なプロジェクトアイデアの創出
桜や川的环境保全活動、高齢者のボランティア輸送などの具体案

話合いのポイントと今後の課題

あて職からの脱却と、テーマ別の有志チーム制の導入

属性別ワークショップ（女性、若者等）によるニーズ発掘

「小さく始める」ことで参加ハードルと負担感を下げる

自治会等のメリットの明確化と積極的な情報発信

多様な主体（多世代・女性・外部人材）参画による継続性担保

【フォローアップ】石川町 出前講座フォローアップ

出前講座のアンケート結果や意見交換の内容を共有し、地区ごとの意見交換を行いました。

i 開催概要

日時：令和8年2月12日(木) 18:00~19:30

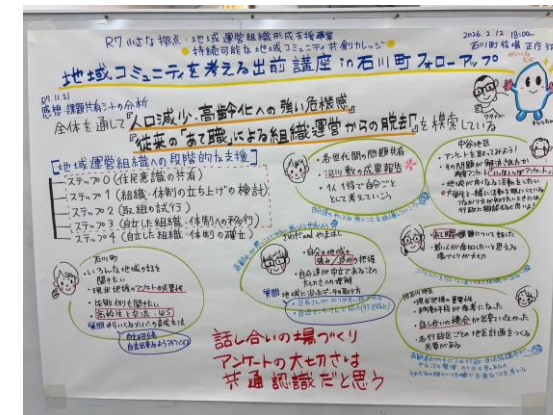
会場：石川町役場 3階正庁

対象：自治組織の役員、行政区長、集落支援員など 参加者：32名

出前講座の振り返り

地域づくり活動の訓練（具体的なコミュニティ活動）

意見交換



💡 主な意見

対策の方向性：自治協議会と個別の行政区の組み合わせが重要であり、各区でのきめ細かな対応が求められている

住民意識：新旧住民のギャップや、自治会加入のメリットをどう伝えるかが課題となっている

アンケートの重視：「とりっぱなし」にせず、調査結果を住民に報告し、課題解決の根拠（エビデンス）とすることが極めて重要である

評価と改善：実践に対してPDCAサイクルを回し、数値化しにくい事業も周囲の反応を含めて評価・改善していく必要がある

具体的指標：交流人口など、数字に出しやすい評価軸も活用する

データの可視化：高齢化率などの地域データを可視化し、住民全体が「自分事」として問題を把握する必要がある

若年層・関係人口の活用：町内にある2つの高校の生徒をワークショップなどで有効活用し、将来的な関係人口増につなげる

多世代交流の場：子ども会から長寿会まで全世代が集まり、課題を共有する場を設ける

本音の場づくり：地区によってはできないこともあるため、顔を隠してでも「本音」を言い合える場が必要である

まとめ・今後に向けて

✓ 3事例の共通ポイント

課題感：人口減少による地域の担い手不足は共通の課題であり、自治体内での地域運営組織の活動の進捗の差（進んでいるところと停滞しているところがあり、何に取り組んで良いか分からないというところも）が課題として認識された。

情報共有の重要性：同じ自治体内でも、情報共有の機会が少ないと、活動の停滞が起こってしまう恐れがあり、他の組織の取組内容や、支援メニュー等の共有が必要との意見が多かった。

対話の場や研修の機会の創出：地域運営と住民との対話、同じ自治体内での地域運営組織同士の対話により、課題解決の糸口を見つけ、事業の起こし方や組織運営、補助金活用等の研修の機会を求める意見が多かった。

➔ 今後に向けて

自治体の伴走支援：定期的な地域運営組織同士の情報交換の機会を創出するとともに、次のポイントで活動をサポートしていく。

<組織づくりや事業創出に向けたポイント>

多様性：多世代・多様な主体の巻き込み

意識転換：「あて職」から有志ベースへ

事例選定：参加者が「自分事化」できるものを

小さく始める：実験と改善のサイクル

対話の場：定例化と評価・フィードバック

可視化：グラレコ等を用いた議論の共有

外部連携：関係機関との連携具体化・協定等

事業活用：補助事業の申請を見据えた計画策定

事務局の研修：事務局スタッフ（集落支援員、地域おこし協力隊等）向けの研修会等

【お問合せ先】

福島県 企画調整部 地域振興課

住所：〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16

TEL：024-521-7114 / Email：tiikishinkou@pref.fukushima.lg.jp

